

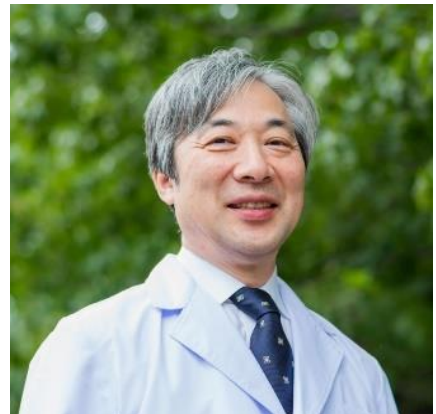
- P1 学術集会会長の学術集会に関する案内
- P2 会長の所属研究室の紹介
- P4 学会所属の研究者紹介
- P8 事務局からのお知らせ

第52回 日本臨床分子形態学会総会・学術集会開催のお知らせ

COVID-19の緊急事態宣言も解除され、『ウィズ コロナ時代』の新生活様式が始まっております。大変なご不便の中ではございますが。皆様、研究者・医療者として感染拡大防止に日々ご尽力されていることと存じます。心より御礼申し上げます。

さて、このたび我々札幌医科大学産婦人科学講座におきまして、第52回臨床分子形態学会・学術集会を開催させていただくこととなりました。歴史的なパンデミックの年の開催となり、不安定な情勢の中ではございますが無事に皆様をお迎えできますよう、誠心誠意準備を進めております。

既に会員の皆様には学会事務局を通じて御連絡させていただきました通り、感染流行状況を鑑み会の期日を9月18日～19日（金・土）から、12月3日～4日（木・金）へ変更・延期させていただいております。札幌市もようやく6月23日に約2か月半ぶりの感染者ゼロを記録いたしました。近隣都市や関東の感染状況を見回しますと、まだ見通しは不透明な状況と言わざるを得ません。



原点回帰
一隅を照らす

このような最中に大変恐縮ではございますが、会員の皆様におかれましては是非に本会への御参加ならびに演題登録をお願いしたく存じます。会期の延長に合わせまして、**演題募集も8月26日まで期間延長**を既に決定しております。会員の皆様方の御参加・御協力をどうぞ賜れますよう、重ねてお願い申し上げます。感染症の世界的流行の中、会の延期にも関わらず特別講演・教育講演を御快諾いただいた先生方には感謝申し上げます。骨髓幹細胞を用いた神経再生医療を実現されました本学の本望修先生の特別講演や、新潟大学学長であります走査電子顕微鏡および組織学の第一人者牛木辰男先生の教育講演を予定しており、目が離せません。またHelp Me! コーナーの大会中常設もあり、会員の皆様の研究情報交換の場として有益な会であると確信しております。

爽やかな初秋から変わりまして、寒さ厳しい冬の北海道での開催となります。どうぞ皆様御自愛の上、万全の体調でお越し下さい。医局員一同、十全な感染対策を行いつつ、皆様のお越しをお待ちしております。

第52回臨床分子形態学会総会・学術集会会長
札幌医科大学産婦人科学講座 教授 齋藤 豪

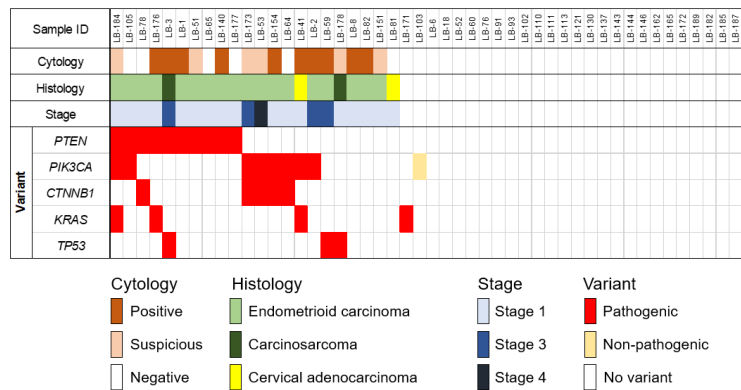
札幌医科大学産婦人科学講座 研究室の御紹介

札幌医科大学産婦人科学講座では、主に婦人科腫瘍・生殖内分泌・周産期の3分野に分かれまして、各々講座内もしくは基礎系研究室と連携を取りながら、研究を進めております。各研究チームの主だった研究について、概要を御紹介いたします。

・松浦チーム:子宮体癌液状化細胞診検体の遺伝子解析研究

子宮体癌検診における内膜細胞診の検出感度（陽性＋疑陽性）は90%を超えるとされ、特異度は84～100%と報告されています。しかし疑陽性例では内膜増殖症を含めた腫瘍性病変の検出率が50%と必ずしも良好ではないうえに、疑陽性例は約25%と多く、診断基準や標本の標準化が不十分であるという問題点を抱えております。そのため子宮体癌スクリーニングの新たな方法が探るべく、本研究をおこなっております。

子宮体癌患者を対象に、子宮内膜の液状化細胞診検体を用いて、PTEN、KRAS、TP53、PIK3CA、CTNNB1などのがん関連遺伝子変異を解析し、通常の細胞診診断に加えて、これらの遺伝子変異の結果をもとに診断精度の向上、予後予測精度の向上を目指すことを目指しております。
(松浦基樹 講師)



・馬場チーム:生殖医療研究班

生殖医療研究班では、卵胞の3次元体外培養技術を用いて卵胞発育に関与する卵巣局所因子の影響について研究しております。卵胞とは、卵母細胞、顆粒膜細胞、莢膜細胞（卵胞膜細胞）から構成される単位で、未熟な卵母細胞の成熟（受精能獲得）や性ホルモン産生をつかさどる重要なものです。卵巣から150-200μm程の卵胞を実体顕微鏡下で単離しセルリペレントディッシュで個別培養します。この技術の応用により、多嚢胞性卵巣症候群における排卵障害の原因解明と治療法の確立、体外での安全な配偶子形成法の確立によるがん生殖医療への貢献などが期待されます。
(馬場剛 講師)



顕微鏡下のウシ卵胞分離風景
(春日 大学院生)

・石岡チーム: 広汎性子宮頸部摘出術後の胎盤細菌叢解析

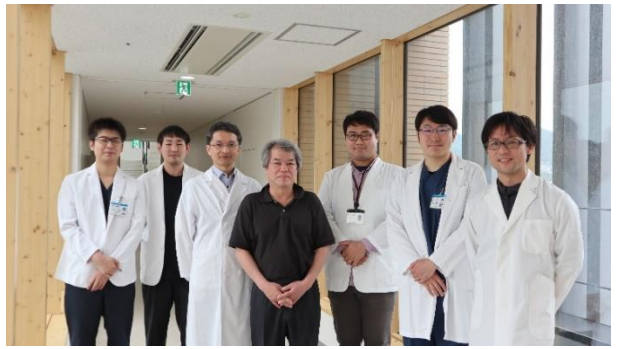
札幌医科大学産婦人科学講座の特色の一つでもある、浸潤性子宮頸癌に対する妊孕性温存手術『腔式広汎性子宮頸部摘出術』は子宮温存および妊娠出産が可能となる若年子宮頸癌の女性にとってはまさしく希望の光とも言える術式です。しかし、子宮頸部の大きな欠損に伴い子宮内は感染リスクに晒されており、予兆の無い前期破水や絨毛膜羊膜炎の発症コントロールに苦慮するケースがあります。我々産科チームは現在、広汎性子宮頸部摘出術後胎盤の16SrRNAを用いたメタゲノム解析を行い病態解明ならびに有効な臨床的アプローチを模索すべく日々解析を行っております。(真里谷 奨 助教)

・基礎系講座: フロンティア医学研究所細胞科学部門

私たちの研究室では、細胞の機能を科学することで、ヒト疾患の病態の理解を深め、予防と治療法の開発に役立つ研究を行っています。

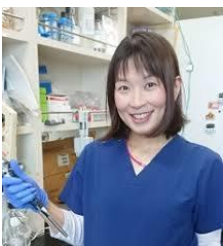
病気のメカニズムを解明するためには、健康な状態との比較が重要です。私たちは、患者様から提供していただいた検体と、ヒト正常細胞との細胞機能の違いを詳細に解析することで、病態の理解につながる新たな細胞機能を見出すことに焦点を当てて研究を行っています。

(斉藤公仁 大学院生)



写真中央は本学会評議員の小島隆教授

・基礎系講座: 第一病理学講座 新規婦人科がん免疫療法の確立



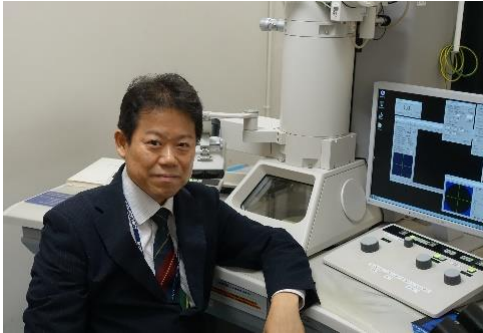
研究課題は、婦人科癌細胞と細胞障害性Tリンパ球(CTL)についてで、CTLのcloningを踏まえたpeptide解析を目標としています。また、子宮頸癌株における、ストレス因子の負荷を定量的に分析し、特徴的な結果を呈するかどうかを検証しています。既報は少なく、非常に難易度の高い課題ではありますが、持続的な研究を目指しています。

(常松梨沙 大学院生)



上記研究の他、癒着胎盤のバイオマーカー研究や深層学習を用いた自動細胞診断システムの開発(公立はこだて未来大学との合同研究)等、幅広い研究活動を進めております。新型コロナウイルスの影響で進捗に影響を受けているものも多々ございますが、学術集会におきまして成果を御報告できますよう、研究チーム一同昼夜を惜しんで研究に励んでおります。(文責:真里谷)

研究者紹介



日本臨床分子形態学会 評議員 理事

高木 孝士 (TAKASHI TAKAKI)

(昭和大学電子顕微鏡室)

『技術の継承と新たな進化を目指して: 電子顕微鏡を使った基礎研究推進』

はじめに

6才の時に顕微鏡を買ってもらい、池の水の中の目では見えない生物を初めて見た時の感動は今も忘れられません。私は2017年の2月に昭和大学電子顕微鏡室に入職しました。前任者から教室運営を約1か月半で引き継ぎ、4月から大学院生1名、学外の研究生2名、ボランティア1名と共に教室の管理運営、企業・内外の大学との共同研究、学内外の研究支援と技術教育、個人の研究などなど、右も左も判らないまま無我夢中で行い、気が付けば3年が経ちました。

本年、初めて受けもった大学院生が博士号を取得して卒業しますが、新たに病理技術者が配属されてやっと教室としても安定稼働してきており、大学の状況も少し把握ができてきた所です。初めて指導した大学院生の向井俊平先生は第50回学術集会（中村正彦会長）で最優秀演題賞を受賞しております。



研究歴

2009年にイグノーベル賞・生物学賞を受賞した北里大学衛生学部微生物学教室の故田口文章先生の指導のもとで大腸菌を用いた遺伝子導入など、今では教科書に基礎として書かれている手技開発や界面活性剤中に存在する鳥の羽を分解する新たな細菌探索など研究の基礎を学びました。この話を他者にしますと、北里柴三郎先生に憧れて細菌学を学ぶために大学に入ったんですかと良く聞かれますが、高校時代はボクシングとオートバイに・・・と明け暮れて殆ど勉強もせず、大学の入学式で北里柴三郎が誰かを初めて知るような学生でした・・・

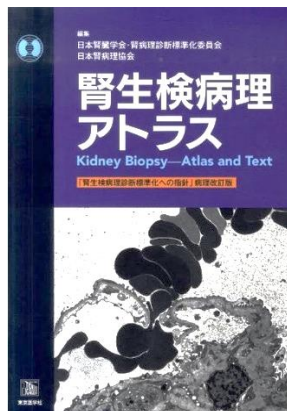
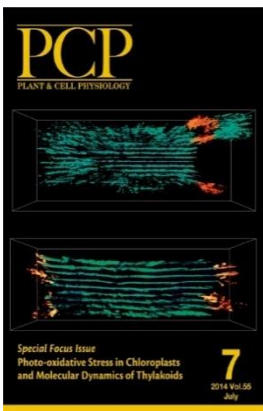


大学卒業後もバイク、旅行(放浪)に明け暮れておりましたが、2004年に当時勤務していた(株)SRL 電子顕微鏡室業務とは別に、関西医科大学第1病理の池原進先生、保坂直樹先生のご指導で専攻生、研究員として、9年間週末毎に東京⇄大阪を通過して骨髄内骨髄移植(Intra-bone marrow[IBM]-BMT)を用いた研究と教室内の電子顕微鏡教育をする機会を得ました。この研究成果は、(Presence of donor-derived thymic epithelial cells in [B6→MRL/lpr] mice after allogeneic intra-bone marrow-bone marrow transplantation (IBM-BMT). JOURNAL OF AUTOIMMUNITY31(4)408-415, 2008)で報告し、2009年に博士号(医学)を取得することもできました。本学会には、2001年に長崎で開催された第33回日本臨床電子顕微鏡学会(雨宮次生会長)で初めて発表してから参加をしておりましたが、この大阪のご縁で、2008年に関西医科大学脳神経外科 河本圭司先生のご推薦で本学会の評議員になり現在に至っております。2013年から2年間は埼玉医科大学中央検査施設で穂田真澄先生の教室で研究員として神経細胞を用いた新規薬剤関連の研究を、2015年からは現在も東北大学医学部病理病態学講座の笹野公伸先生の教室の非常勤講師として共同研究などをさせて頂いております。

今までの業務は大学や企業への電子顕微鏡を主体とした研究提案や、有償の受託研究が主体で、研究内容は生物以外に有機物、燃料電池、液体など多岐にわたっておりましたが、症例報告や一部の装置宣伝を兼ねた研究を除いては名前や内容が出せず、学会報告も出来ないものが殆どでした。

電子顕微鏡による3次元観察を用いた研究

2012年頃、海外で電子顕微鏡による生物の3D観察が盛になっているとの情報があり、岡山大学 大学院自然科学研究科の山本泰教授、西村美保先生らと材料観察で使われていたTEM tomography法を応用してほうれん草の葉緑体の立体構造を約200nmの切片を用いて解明して報告しました。(Quality control of photosystem II: direct imaging of the changes in the thylakoid structure and distribution of FtsH proteases in spinach chloroplasts under light stress. Plant & cell physiology 55(7) 1255-65, 2014)



実は、2007年に山梨大学で開催された第39回学術講演会(大野伸一会長)で選択的に糸球体基底膜の断裂部位を超薄切して観察する方法を使ってIgA腎症とループス腎炎の症例で「腎糸球体基底膜断裂部位からの赤血球漏出像の提示」を発表しました。この時の写真は世界でもほとんど発表例がないという事で、2010年発行された日本腎臓学会/日本腎病理協会編集の腎生検病理アトラスの表紙写真にも使われました。この糸球体の断裂は厚さ約280nm程度の範囲内で起こっており、電子顕微鏡検索でこれを選択的に探すのは非常に時間

がかかり研究で用いるには限界がありました。この断裂部位の状態を電子顕微鏡レベルで正確に解明したくても日本では、電子顕微鏡による3次元観察は一般的ではなく、上記のTEM tomography法での検討を考えました。しかし、装置能力、技術の問題などの課題が多く、この研究を腎臓で続けることをあきらめていました。海外ではSEMを利用した3次元解析が可能な装置をCarl Zeiss社が発表しておりましたが、日本の電子顕微鏡メーカーでその方法に対応できる場所はまだ無く、当時勤務していた日本電子株式会社では自分で何か装置を開発

して研究できるような環境でもありませんでした。そんな時、2014年の第46回学術講演（根本則道先生）で山梨大学の太野伸彦先生、齊藤成先生がCarl Zeiss社の走査電子顕微鏡を用いた3D観察データを使った発表をされ、その場で両先生にヒトの腎臓研究でこの技術を使いたいと、相談をした事がきっかけで共同研究をすることになりました。この技術を使う事で、探すこと自体が困難だった糸球体基底膜の断裂部位を比較的簡単に観察することが可能となり、立体解析研究を進めることができるようになりました。この研究過程でヒトのループス腎炎の糸球体で足細胞が基底膜を通過してメサンギウム細胞と直接接触していることを世界で初めて発見し、報告をすることもできました。（Podocyte penetration of the glomerular basement membrane to contact on the mesangial cell at the lesion of mesangial interposition in lupus nephritis: a three-dimensional analysis by serial block-face scanning electron microscopy. Clinical and experimental nephrology 23(6) 773-781, 2019）この研究は当時勤務していた日本電子株式会社では無く、笹野先生にご尽力を頂いて東北大学非常勤講師として研究及び発表をさせて頂きました。また、この発表がご縁で、昭和大学医学部解剖学講座顕微解剖学部門の本田一穂先生にご紹介をして頂いて、当教室に落ち着くことができました。この研究を行う事が出来たのは太野伸彦先生、笹野公伸先生、本田一穂先生のお力添えとご指導によるものであると大変感謝しております。

今後の活動・研究

昭和大学に入職した時点で、電子顕微鏡は積極的に活用されていませんでした。大学内で電子顕微鏡をよく知って貰うために、年3回の電顕の勉強会と昭和大学職員子弟を対象とした『電子顕微鏡夏の学校』を本学職員、国際交流センター（留学生）、日立ハイテク及び日本電子株）に協力して頂いて開催しています。電子顕微鏡の認知率も上がり、3年間で電顕室の登録者が227名増加、使用率もTEMが25倍、SEMは40倍と増加しています。また、電子顕微鏡研究の普及のため、2018年にはモンゴルのモンゴル健康科学大学に招待して頂き、そのご縁で交流が続いています。モンゴルには国内に走査電子顕微鏡が2台しか無く、ほぼ稼働しておらず今年の4月から電顕の技術を学ぶために研究生が当教室に来る予定でした・・・。次年度は新型コロナ肺炎も収束して、当教室に来られることを期待すると共に、モンゴルの電子顕微鏡研究普及のために尽力をしていきたいと考えております。また、腎臓の3Dの研究で昨年は中国の武漢、鄭州、上海などへ講演に呼んで頂きました。このご縁で、中国からの留学生が当教室で3D解析を行っており、いくつかの共同研究も進む事になっておりましたが、これも、新型コロナ肺炎の関係で全てが止まった状態になっており残念に感じています。



国内でも、大学内外の研究者と電子顕微鏡を用いた多数の共同研究を行っておりますが、最近は特に免疫電顕、立体観察の需要が非常に高くなっております。2017年に当教室に来て3年間で共著を含め12本の学術論文を発表し、その他に6本の論文が審査待ちの状態になっています。これからも、電子顕微鏡の重要性、形態学の重要性が世界的に再認識されてきていると感じております。現在、内外の大学の研究者や企業の方との共同研究の他には、下記の様な研究を推進しています。

- ①新たに確立したSEMIに特化した免疫電顕染色方法の染色方法の最適化
数値化による腎移植病理診断や病理診断への補助診断検討
- ②ホルマリン固定パラフィン包埋試料のSEMIによる高分解能観察方法の確立
- ③エポキシ樹脂包埋ブロックの簡易免疫電顕法の確立
- ④STEM法を用いた生物試料の広視野、高分解能観察方法の検討
- ⑤電磁場を利用した新たな解凍機の病理試料作製への応用
- ⑥質量顕微鏡を用いた新たな腎疾患関連バイオマーカーの検索
- ⑦腎足細胞とメサングウム細胞に注目した糸球体硬化症の原因因子や関連バイオマーカーの探索

電子顕微鏡技術や解析方法（3D観察方法）は、過去に先人が考えてきた技術の応用や装置の進化によって簡単に行えるようになった物が殆どです。クライオ技術が近年騒がれてはおりますが、ここ何十年も新たな画期的な方法や形態観察以外の新たな利用方法が殆ど考えられていない事が電子顕微鏡の衰退につながっていると思います。そのために今までの常識にとらわれない新たな技術開発のため、現在は固定液及び包埋剤を中心として新たな可能性も模索しております。

その他、電子顕微鏡を利用した受託研究、共同研究、電顕技術の継承のための技術者教育のお手伝いもしております。ご興味のある方は是非ともご相談もしくは学会などで気楽にお声掛けください。

事務局からのお知らせ

令和2年～4年度の評議員が決定されましたので、ご報告申し上げます。

令和2年4月1日現在 130名

氏名	所属	氏名	所属
青木 大輔	慶應義塾大学医学部 産婦人科学教室	秋葉 保忠	UCLA医学部
秋元 義弘	杏林大学医学部解剖学教室	東 華岳	産業医科大学医学部 第1解剖学講座
東 俊文	東京歯科大学歯学部生化学講座／口腔科学研究センター	安彦 善裕	北海道医療大学歯学部生体機能・病態学系臨床口腔病理学分野
五十嵐 誠治	慈山会医学研究所付属坪井病院 病理診断科	市野瀬 志津子	日本医科大学付属病院 形成外科 再建外科 美容外科
伊東 秀記	愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所神経制御学部	伊東 秀文	和歌山県立医科大学 神経内科
伊藤 正孝	防衛医科大学校 再生発生学講座	伊藤 裕子	大阪医科大学 一般・消化器外科学教室
井上 勉	埼玉医科大学腎臓内科	上野 隆登	朝倉医師会病院
上松 聖典	長崎大学医学部 眼科	上松 右二	和歌山県立医科大学 保健看護学部
江口 正信	公立福生病院 病理診断科	江村 正一	平成医療短期大学 リハビリテーション学科
大磯 直毅	近畿大学医学部 皮膚科学教室	大拙 祐治	(財)松山市民病院 病理診断科
大槻 勝紀	大阪医科大学	大野 伸一	山梨大学大学
大野 伸彦	自治医科大学医学部解剖学講座組織学部門	大平 弘正	福島県立医科大学 消化器内科学講座
岡村 佳則	熊本総合病院 婦人科	岡本 健	高知大学医学部医療学講座 医療管理学分野
小川 名美	岐阜大学大学院医学系研究科病態制御学講座解剖学分野	小川 弥生	NPO法人北海道腎病理センター
小山内 誠	札幌医科大学医学部 病理学第二講座	織田 克利	東京大学医学部附属病院 産婦人科
尾之内 高慶	藤田医科大学 研究支援推進本部 共同利用研究設備サポートセンター 生体画像解析室	小幡 博人	埼玉医科大学総合医療センター
覚道 奈津子	関西医科大学 形成外科学講座	梶原 健	埼玉医科大学 産科婦人科学教室
加島 陽二	日本大学医学部 視覚科学系眼科学分野	片渕 秀隆	熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学分野
鹿股 直樹	聖路加国際病院 病理診断科	河野 裕夫	山口大学大学院医学系研究科 保健学系学域基礎検査学分野
北岡 隆	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 眼科・視覚科学教室	木村 富紀	立命館大学薬学部 病原微生物学
京 哲	島根大学医学部 産科婦人科	草深 公秀	地方独立行政法人静岡県立病院機構静岡県立総合病院 病理学部
栗原 秀剛	藍野大学医療保健学部 理学療法学科	黒川 一郎	明和病院 皮膚科
小出 馨子	昭和大学医学部産婦人科学講座	小路 武彦	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科組織細胞生物学分野
古賀 浩徳	久留米大学医学部 内科学講座 消化器内科部門	小島 隆	札幌医科大学医学部 フロンティア医学研究所 細胞科学部門
小西 郁生	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター	小林 道也	高知大学医学部医療学講座医療管理学分野
小松 弘一	横浜市立市民病院 消化器内科	菰原 義弘	熊本大学大学院生命科学研究部細胞病理分野
齋藤 成	藤田保健衛生大学医学部 解剖学講座Ⅱ	齋藤 豪	札幌医科大学 産婦人科学講座

氏名	所属	氏名	所属
齋藤 永仁	佐賀記念病院	齋藤 文誉	熊本大学医学部附属病院 産科婦人科
坂口 勲	さかぐち女性のクリニック	笹野 公伸	東北大学大学院医学系研究科医科学専攻 病理病態学講座 病理診断学分野
佐藤 毅	埼玉医科大学医学部口腔外科学教室	塩沢 英輔	昭和大学医学部 臨床病理診断学
柴田 雅朗	大阪医科大学医学部 生命科学講座解剖学 教室	柴田 恭明	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 組織 細胞生物学分野
清水 孝恒	星薬科大学	下田 浩	弘前大学大学院医学研究科 生体構造医科学 講座
釈迦堂 敏	福岡大学医学部 消化器内科	新宅 雅幸	滋賀県立総合病院 病理診断科
菅原 弘二	大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学	進 伸幸	国際医療福祉大学三田病院 女性腫瘍セン ター・婦人科
千田 隆夫	岐阜大学大学院医学系研究科 病態制御学 講座解剖学分野	高石 清美	山口赤十字病院 産婦人科
高木 孝士	昭和大学 電子顕微鏡室	高原 照美	富山大学医学部 第3内科
竹腰 進	東海大学医学部基礎医学系生体防御学	竹花 泰雄	キッセイ薬品工業株式会社
田代 浩徳	熊本大学医学部保健学科 母子看護学分野	田中 秀幸	帝京大学医学部 解剖学講座
田丸 俊輔	埼玉医科大学 産科婦人科学	塚田 信廣	東京都済生会中央病院 内科
鶴田 大輔	大阪市立大学 皮膚病態学	寺田 総一郎	江戸川病院健診センター・内視鏡センター
寺田 信生	信州大学大学院医学系研究科 保健学専攻 医療生命科学分野	藤乗 嗣泰	獨協医科大学循環器・腎臓内科
鳥村 拓司	久留米大学医学部内科学講座消化器内科部 門	中島 喜美子	高知大学医学部皮膚科学講座
永田 浩一	愛知県医療療育総合センター 発達障害研究 所	仲谷 和記	四天王寺大学教育学部 教育学科
中西 陽子	日本大学医学部病態病理学系腫瘍病理学分 野	中間 季雄	とちぎメディカルセンターしもつが 整形外科
名嘉真 武国	久留米大学医学部 皮膚科	中村 徹	久留米大学医学部内科学講座 消化器内科 部門
中村 正彦	北里大学薬学部臨床薬学研究・教育センター 病態解析学	中山 健太郎	島根大学 産婦人科
中山 宏文	JR広島病院 教育研修部/診療部臨床検査科	奈須 家栄	大分大学医学部 地域医療支援システム・産 婦人科分野
並川 努	高知大学医学部 外科学講座外科1	西村 巖	大阪大学 産業科学研究所 生体分子制御科 学分野
濡木 真一	大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座	野村 弘行	藤田医科大学医学部産婦人科学講座
萩原 治夫	帝京大学医学部 解剖学講座	長谷川 光広	藤田医科大学医学部 脳神経外科
馬場 長	岩手医科大学医学部 産婦人科	馬場 良子	産業医科大学医学部第2解剖学講座
林 芳弘	高知大学教育研究部医療学系連携医学部門 病理学講座	原田 憲一	金沢大学医薬保健研究域医学系 人体病理 学
原田 大	産業医科大学 第3内科学	菱川 善隆	宮崎大学医学部解剖学講座組織細胞化学分 野
日野 啓輔	川崎医科大学 肝胆膵内科学	深澤 元晶	藤田保健衛生大学医学部解剖学Ⅱ
福沢 嘉孝	愛知医科大学病院 先制・統合医療包括セン ター	福田 孝一	熊本大学大学院生命科学研究部 形態構築 学分野

氏名	所属	氏名	所属
藤田 守	久留米大学医学部 解剖学講座 顕微解剖 生体形成部門	藤野 昇三	帝京大学医学部附属溝口病院 外科診療科
藤原 章雄	熊本大学大学院生命科学研究部 細胞病理学分野	古屋 泰雄	松田外科胃腸科医院
保坂 直樹	生長会 府中病院	堀 裕一	神戸大学大学院保健学研究科・病態解析学
松田 康伸	新潟大学医学部保健学科検査技術専攻	松野 彰	帝京大学医学部 脳神経外科学教室
松峯 昭彦	福井大学学術研究院医学系部門医学領域 器官制御医学講座整形外科学分野	村上 一郎	高知大学医学部 病態学講座
村上 正基	愛媛大学大学院医学系研究科分子機能領域 皮膚科学	本原 剛志	熊本大学生命科学研究部 産科婦人科学分野
森谷 卓也	川崎医科大学 病理学	矢野 博久	久留米大学医学部 病理学講座
山口 建	京都大学大学院医学研究科 婦人科学・産科学	山田 作夫	川崎医療福祉大学 臨床検査学科 臨床栄養学 学科
山本 直樹	金沢医科大学医学部眼科学講座	山本 直樹	山口大学大学院医学系研究科 消化器病態 内科・保健管理センター
横森 弘昭	北里大学 メディカルセンター 内科	若山 友彦	熊本大学大学院生命科学研究部 生体微細 構築学

本会会則第16条（評議員の職務）「評議員は、会の重要な事項を審議する他、学会機関誌の査読を指名された場合には受諾する義務がある」が明記されております。つきましては、新評議員の皆様には会での重要案件の審議はもちろんの事、学会機関誌「MEDICAL MOLECULAR MORPHOLOGY」の査読依頼がございましたら受諾頂きます様、宜しくお願い致します。

（事務局）